

一般国道115号

そうま 福島

相馬福島道路

(復興支援道路)

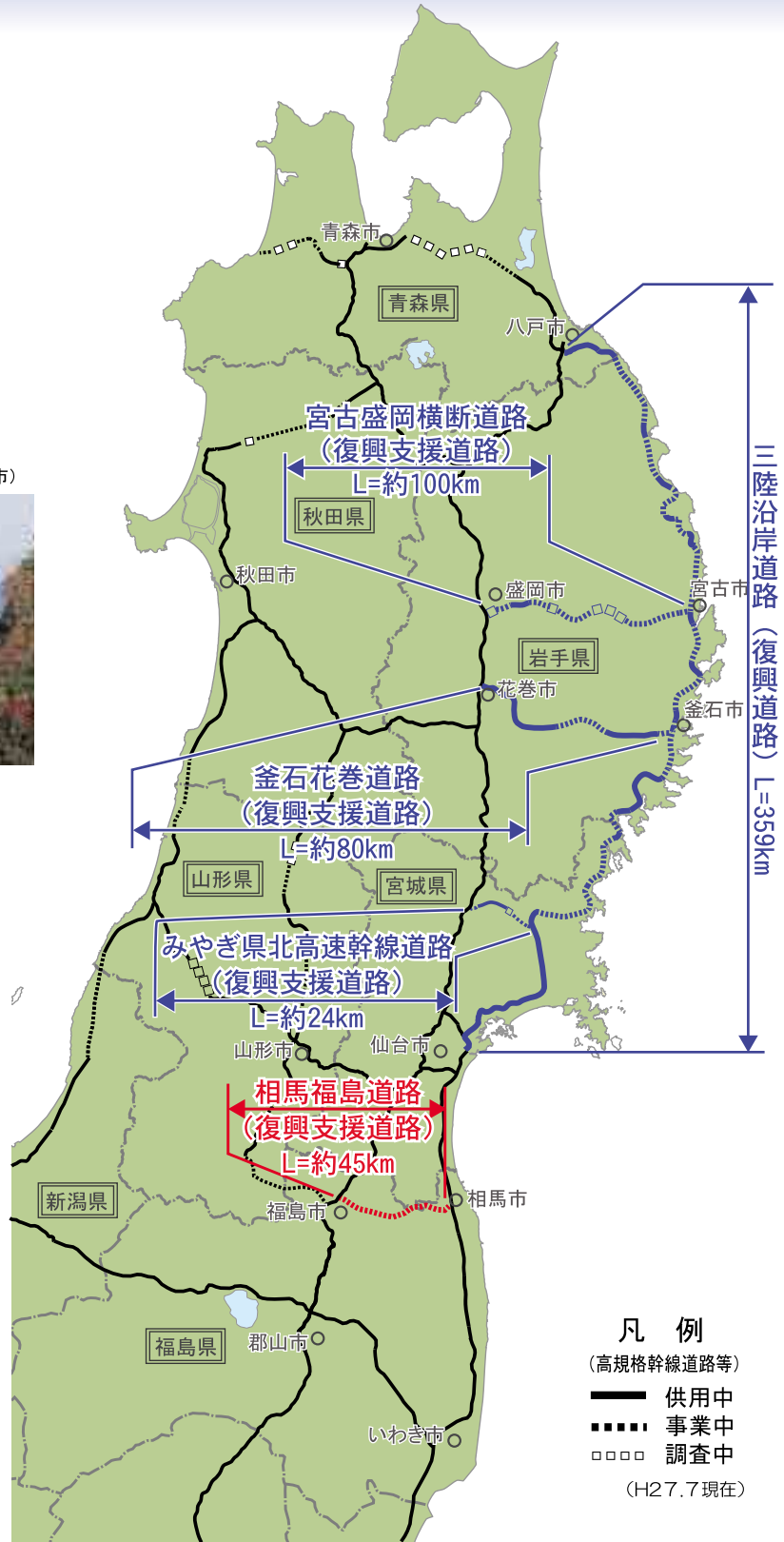
花見山(福島市)



霊山(伊達市)



松川浦(相馬市)



復興道路、復興支援道路

東日本大震災復興構想会議において、「太平洋沿岸（三陸縦貫道等）の緊急整備や、太平洋沿岸と東北道を繋ぐ横断軸の強化について、整備スケジュールを明確にした上で、重点的に進めるべき」との提言を受け、復興道路として三陸沿岸道路の整備、復興支援道路として東北中央自動車道（相馬福島道路）のほか、宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田線（釜石花巻道路）の整備が実施されています。

凡例

- (高規格幹線道路等)
 - 供用中
 - 事業中
 - 調査中
- (H27.7現在)

全体図

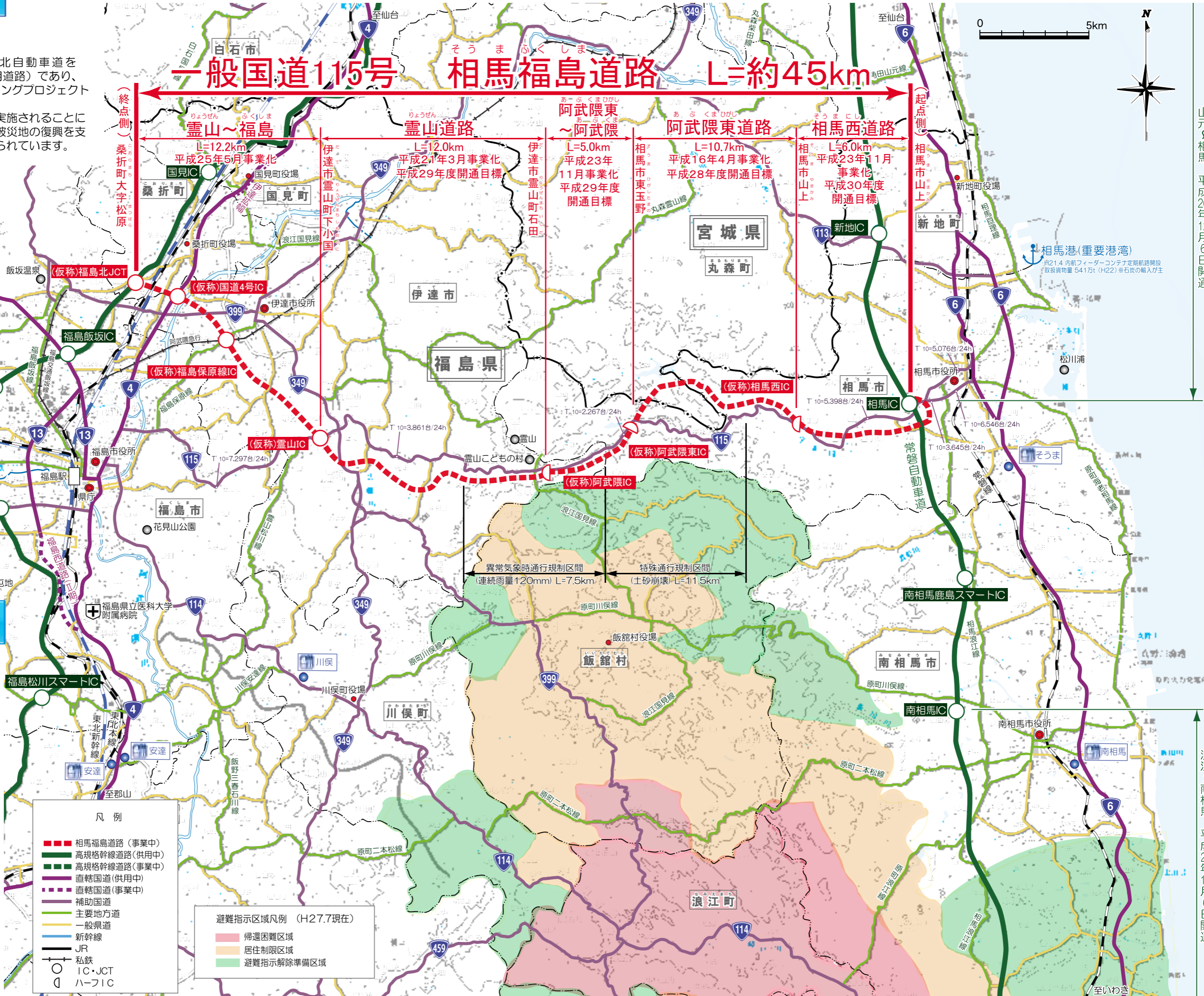
■相馬福島道路

相馬福島道路は、常磐自動車道と東北自動車道をつぶす約45kmの高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、東日本大震災からの早期復興を図るリーディングプロジェクトとして位置づけられています。

本道路が復興支援道路として緊急整備が実施されることにより、被災地と内陸部の連携が強化され、被災地の復興を支援することから、早期完成を目指して進められています。

なお、開通後は**無料**で通行できます。

一般国道115号 相馬福島道路 L=約45km



山元〜相馬 平成26年12月6日開通

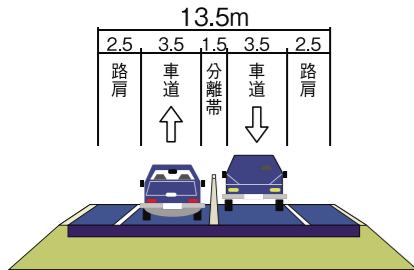
平成27年3月1日常磐道全線開通

浪江〜南相馬 平成26年12月6日開通

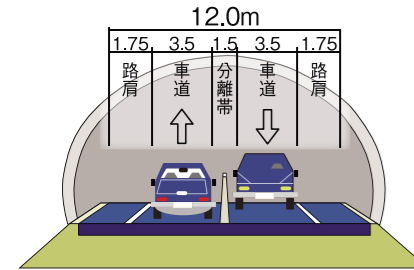
道路構造

(第1種第3級 設計速度80 km/h 自動車専用道路)

一般部



トンネル部・長大橋部



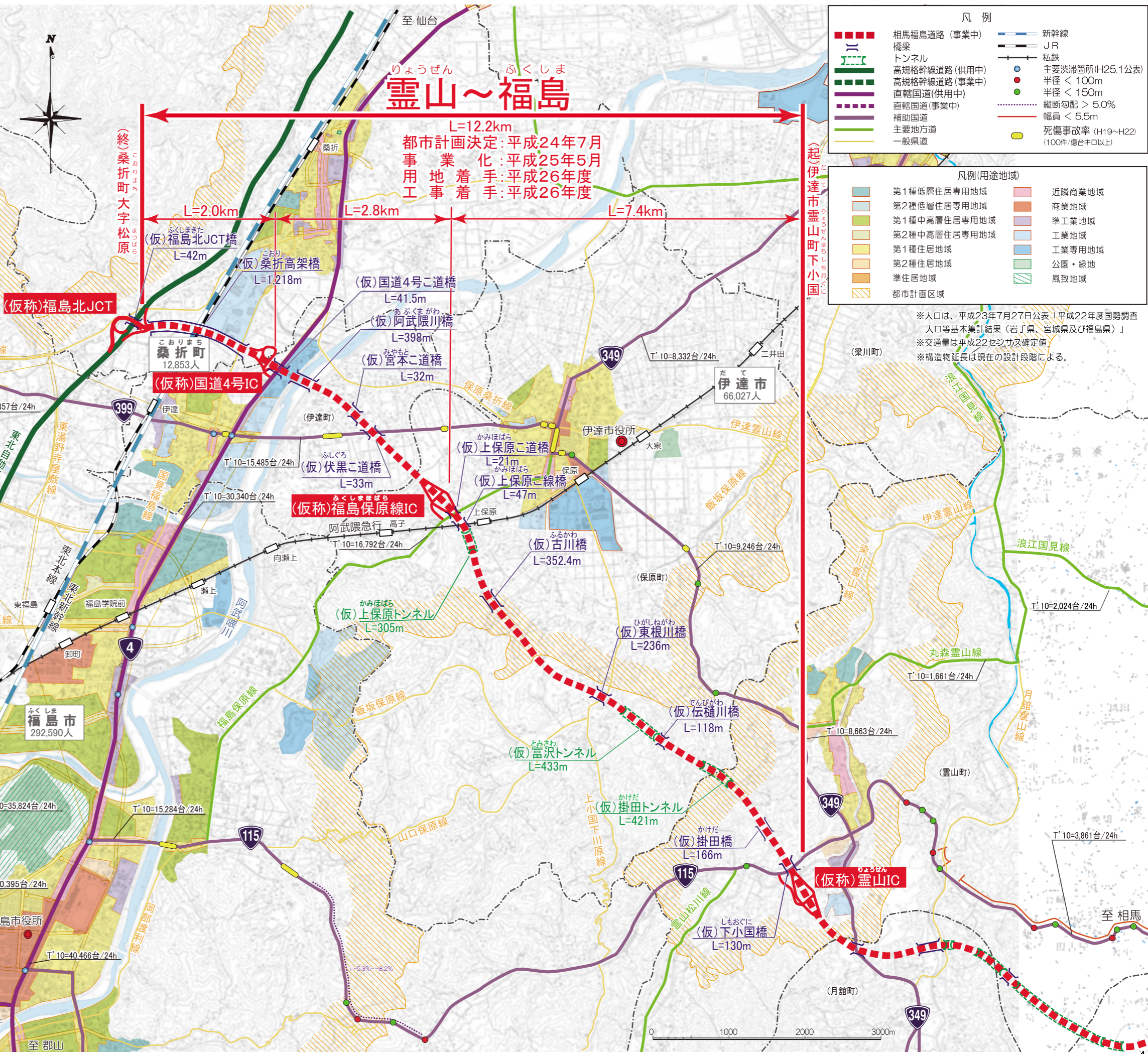
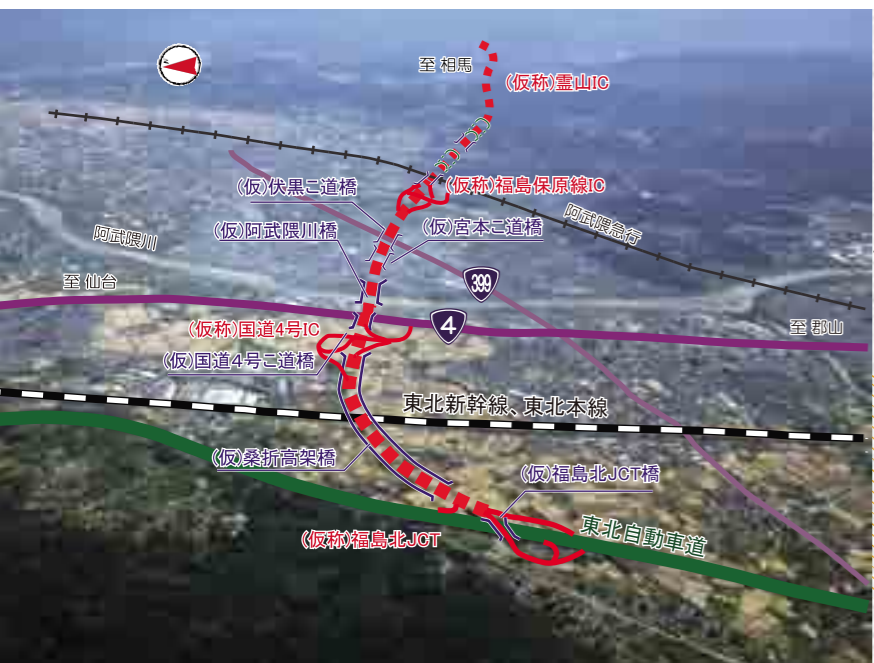
凡例

- 相馬福島道路(事業中)
- 高規格幹線道路(供用中)
- 高規格幹線道路(事業中)
- 直轄国道(供用中)
- 直轄国道(事業中)
- 補助国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 新幹線
- JR
- 私鉄
- IC・JCT
- ハーフIC

避難指示区域凡例 (H27.7現在)

- 帰還困難区域
- 居住制限区域
- 避難指示解除準備区域

霊山～福島



霊山道路・阿武隈東～阿武隈



あぶくまひがし
①阿武隈東IC付近



とうほし
③当保志橋



ななつくぼ
②七ツ窪トンネル



つきだて
④月館高架橋

▲阿武隈東～阿武隈

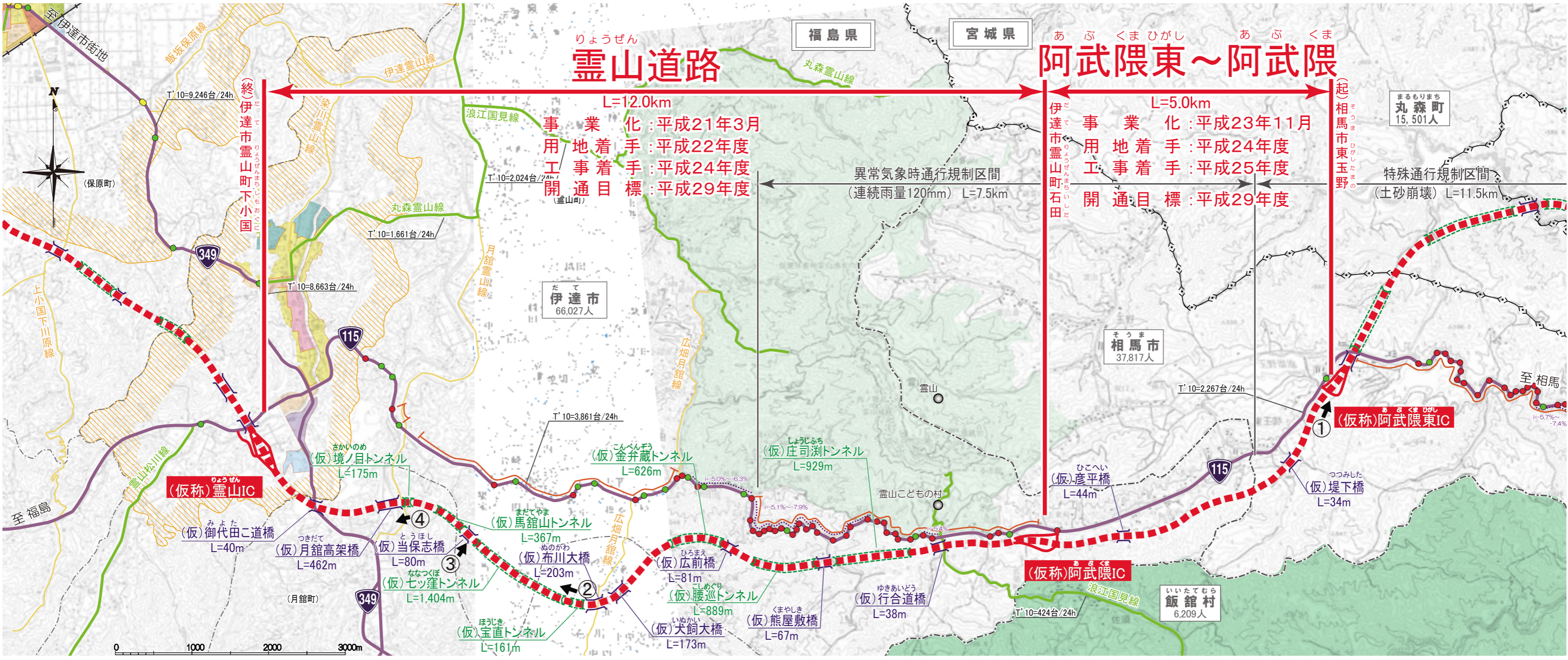
▲霊山道路

凡例	
相馬福島道路(事業中)	新幹線
橋梁	JR
トンネル	私鉄
高規格幹線道路(供用中)	主要渋滞箇所(H25.1公表)
高規格幹線道路(事業中)	半径 < 100m
直轄国道(供用中)	半径 < 150m
直轄国道(事業中)	縦断勾配 > 5.0%
補助国道	幅員 < 5.5m
主要地方道	死傷事故率(H19~H22)
一般県道	(100件/橋台半口以上)

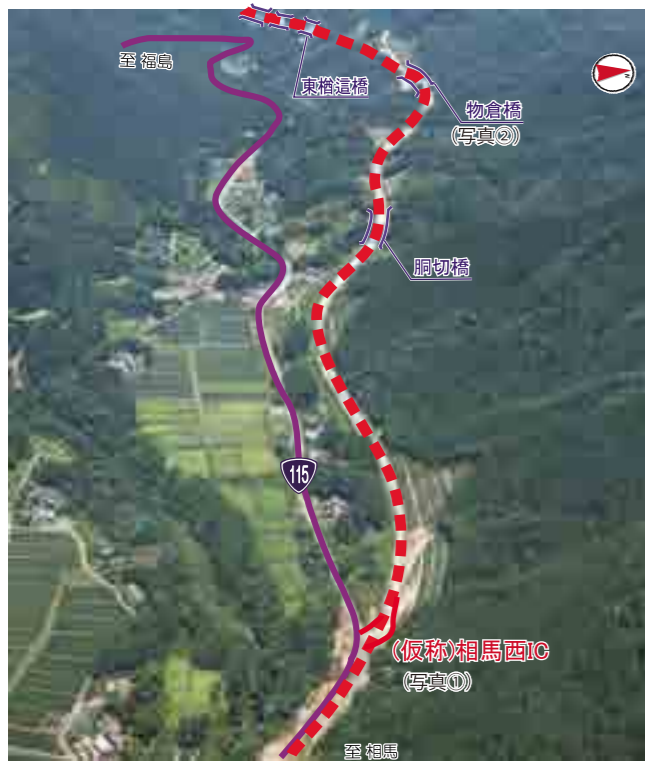
凡例(用途地域)	
第1種低層住居専用地域	公園・緑地
第2種低層住居専用地域	風致地域
第1種中高層住居専用地域	都市計画区域
第2種中高層住居専用地域	
第1種住居地域	
第2種住居地域	
準住居地域	
近隣商業地域	
商業地域	
準工業地域	
工業地域	
工業専用地域	

避難指示区域凡例 (H27.7現在)	
帰還困難区域	避難指示解除準備区域
居住制限区域	

※人口は、平成23年7月27日公表「平成22年度国勢調査人口等基本集計結果(岩手県、宮城県及び福島県)」
 ※交通量は平成22センサス確定値
 ※構造物延長は現在の設計段階による。



阿武隈東道路・相馬西道路



▲ 阿武隈東道路



① 相馬西IC



② 物倉橋(完)



③ 楢這トンネル(完)



④ 宇多川橋(完)



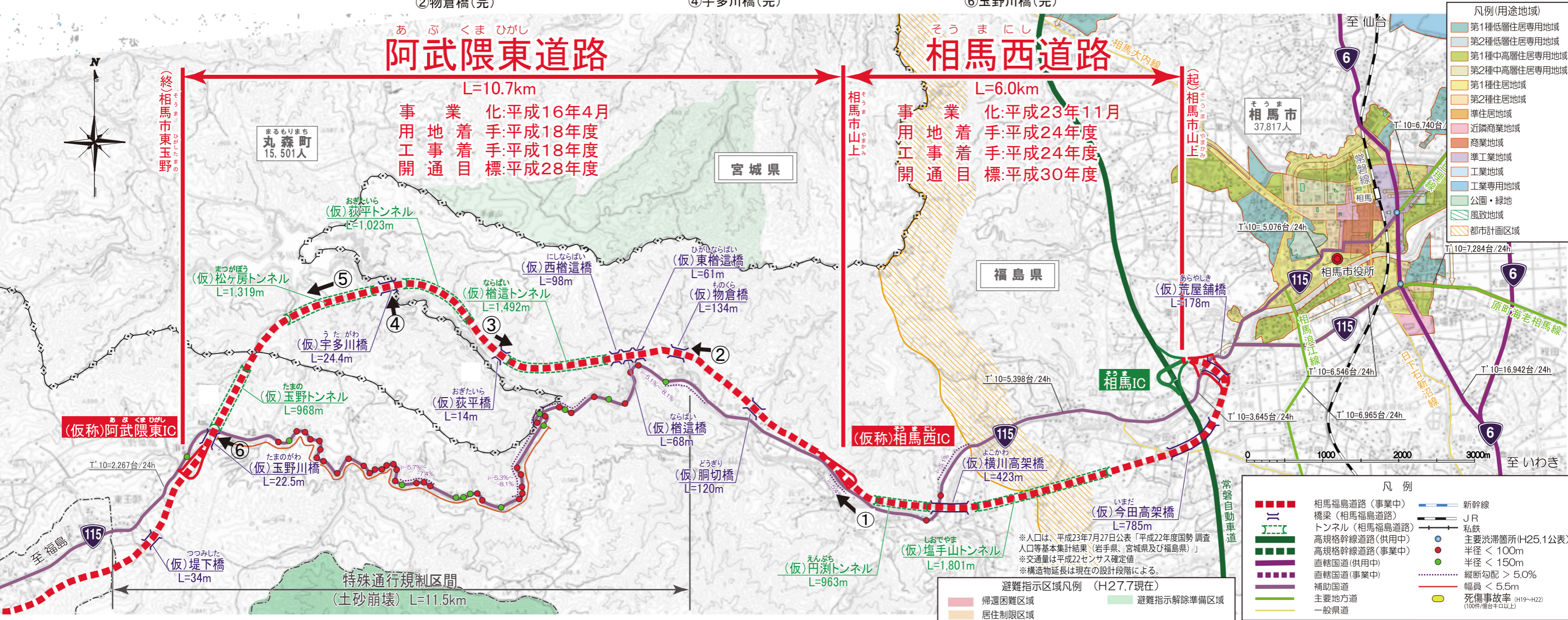
⑤ 松ヶ房トンネル舗装(完)



⑥ 玉野川橋(完)



▲ 相馬西道路



相馬福島道路の整備効果

現状の問題点

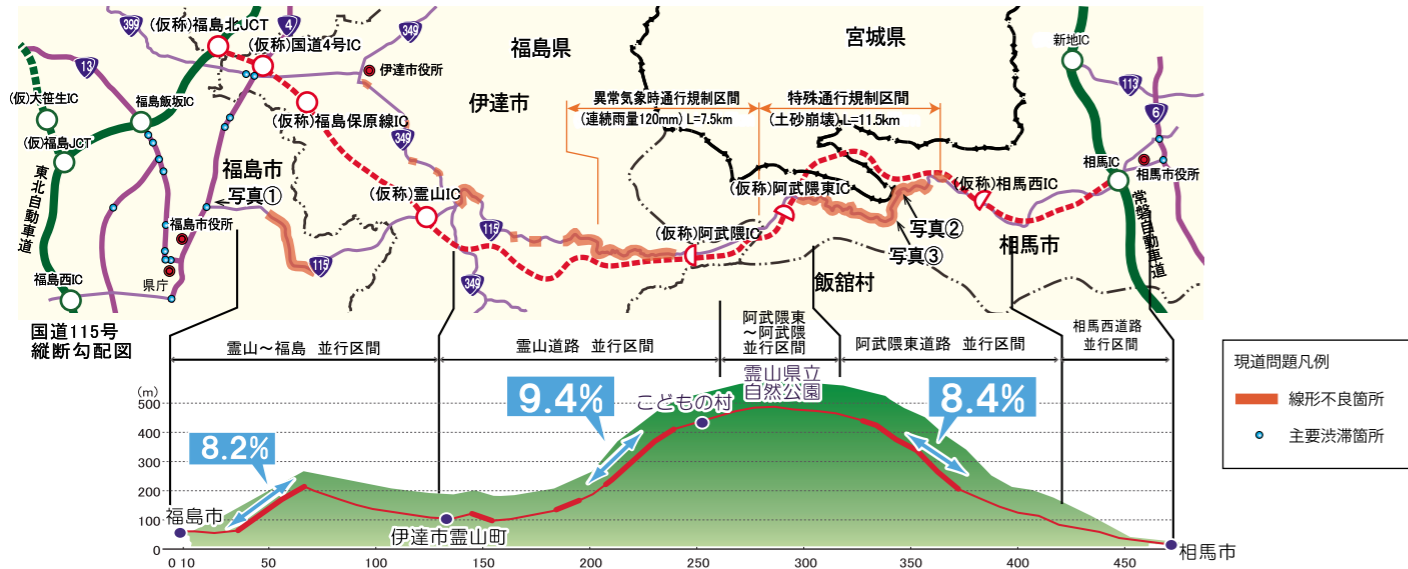
整備効果

相馬～福島間を繋ぐ現道国道115号は、信頼性や速達性に問題があります。

相馬～福島を繋ぐ「命の道」 東日本大震災からの力強い復興に貢献します。

通行止めリスクを回避する等、信頼性が向上します。

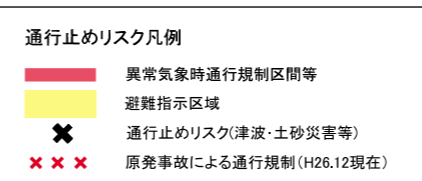
- ◎国道115号(相馬～福島間)は相馬～福島間を繋ぐ主要な路線であり、東日本大震災では沿岸被災地の救助・救援活動のために利用される等防災面においても重要な位置付けにあります。
- ◎しかし、多数の線形不良箇所や事前通行規制区間等があり、信頼性や速達性に問題があります。
- ◎平成18年には大雨による落石で約1ヶ月間の全面通行止めが発生し、物流、生活、観光等、多方面に大きな影響が出ました。



◎相馬～福島間を結ぶ経路は、国道115号を含め、通行止めリスクが多数存在します。よって、大規模災害時は相馬～福島間の全ての経路が遮断される恐れがあります。

※国道115号(相馬～福島間)では、H11～26の過去16年間で15回の全面通行止めが発生

◎相馬福島道路は現在の通行止めリスクを回避するため、相馬～福島間の信頼性が向上します。



■相馬～福島間の現道の通行止めリスクの状況



救急医療施設への搬送時間短縮等、速達性が向上します。

◎相双医療圏北部の三次救急医療は福島県立医科大学附属病院が担っていますが、沿岸3市町(相馬市、南相馬市、新地町)から病院までの現道は、速達性が不十分なうえ、線形不良により安定搬送にも支障が生じています。

【相馬消防署の声】

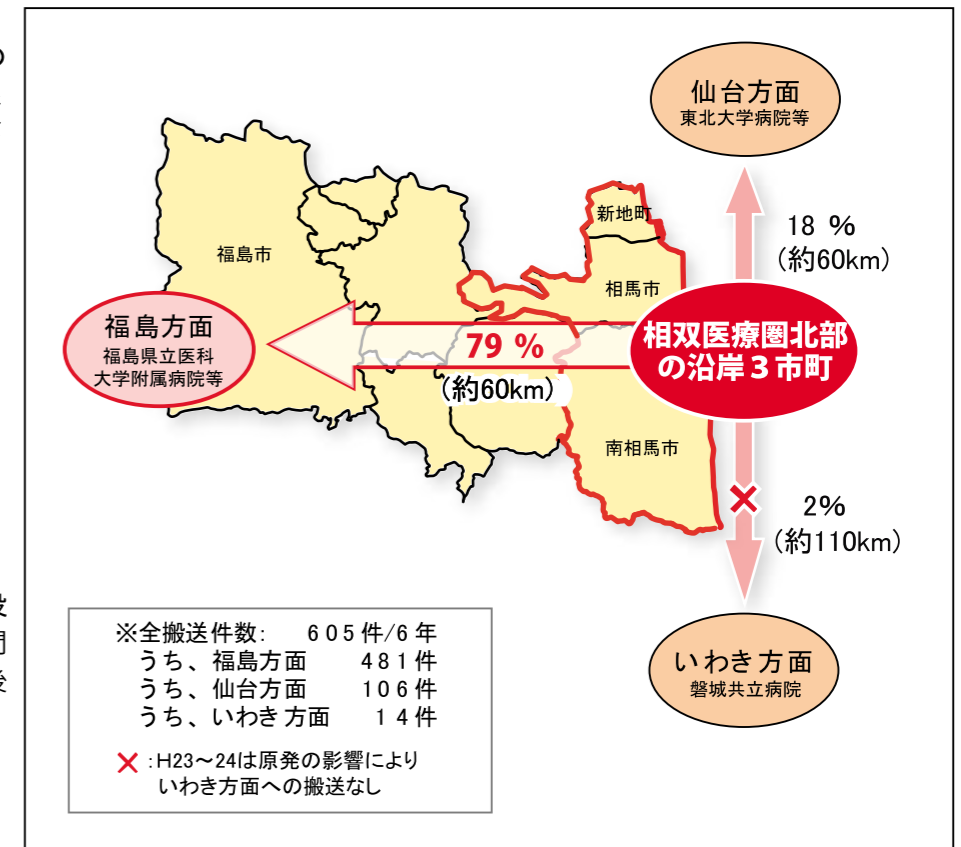
国道115号は急勾配等の線形不良、国道4号は渋滞もあり、緊急走行も安定した走行も出来ず患者の症状が悪化したケースもある。

※第3次救急医療施設は重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる体制と高度な診療機能を持つ医療施設。

◎相馬福島道路整備後は、相馬市役所～福島県立医科大学附属病院間の所要時間が現状80分→整備後59分に改善します。

※現状の所要時間は平成22年度道路交通センサスの旅行速度から算定。整備後の所要時間(相馬福島道路)は想定規制速度(80km/h)で算定。

■相双医療圏北部の沿岸3市町から第三次救急医療施設への搬送割合H21～26)



①主要渋滞箇所



②線形不良箇所(R=25m・Imax=8.4%)



③落石災害発生箇所(H18)(約1ヶ月全面通行止)



④緊急輸送道路として利用される国道115号



平成23年11月に事業化した区間のスタートダッシュ

関係者の合意形成と国・県・市町村等の関係機関の連携による課題解決を目的として、定期的に「復興道路会議」を開催。事業のスタートダッシュによる早期完成を目指します。

平成23年11月 事業化

※復興道路会議
これまでに5回実施
(平成23年11月、平成24年3月、平成25年5月、平成26年5月、平成27年6月)
復興道路等の早期完成に向け、関係機関が連携し課題解決を図るもの。

平成23年11月 復興道路会議（※）及び着工式



相馬市



相馬市山上地内

平成23年11月～12月



測量等土地立入説明会

平成24年1月



中心杭設置式

平成25年2月



相馬市山上地内

平成24年4月～5月

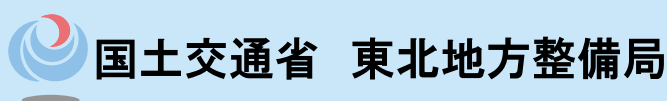


設計・用地説明会

平成24年10月～12月



用地契約会



福島河川国道事務所

〒960-8584 福島市黒岩字榎平36 TEL 024-546-4331(代)

URL <http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/>

磐城国道事務所

〒970-8026 いわき市平字五色町8-1 TEL 0246-23-2211(代)

URL <http://www.thr.mlit.go.jp/iwaki/>